

“平和を求め、
追い求めよ”

(詩編34・15節)

#2

平和が神様の贈り物なら、
私たちの人生において、
ひたむきに神様を
探し求めるべきでしょう。
本物の平和を体験する
ために。

平和を
探し求め
るって？

私たちの心の中の
「良心の声」に
耳を傾けること。

その声はいつも、
悪を離れて善を選ぶようにと
私たちの背中を
押してくれる声です。

平和を築く人
になるには

世界のあちこちで、
人々の血を流す全ての武器を
根絶することはできない
かも知れない。
でも自分の置かれた場で
家で、学校で、地域社会で
傷ついた関係を修復するために
みずから行動することはできる。



「人間が神と平和的関係に
ないならば、自然そのものの平
和も損なわれます。」

神の摂理に従わずに、人間が
自らのエゴイズム、際限ない
所有欲のために自然を利用す
るとき、地球の味わう苦痛を信
仰者は感じるのです。
自然環境は何よりもこうしたエ
ゴイズムや欲望によって汚染
され、物理的な汚染はその結
果にすぎません。

(中略)

すべての被造物が、私たちを
愛して下さる御父からの賜物
であることを知れば、自然との
調和ある関わりがどうあるべき
か自ずと分かります。
そして自然という賜物が、一部
の人たちだけではなく、**現在と
未来の人類全体に与えられた
贈り物であると分かれば、**
一層の敬意を払うことが
できるでしょう。」

1990年に
キアラ・ルービックが日本の
仏教団体である立正佼成会の
創立者庭野日敬師にあてた
手紙より。

僕ら
の
経験:

僕は気が短いタイプです。

ある日、大した理由もな
かったけど、仲間に腹が
立ち、離れていました。
みんな僕に寄ってきたけ
ど、無性にイラついて誰
とも一緒にいたくありません
でした。

一人離れているのは良く
ないと分かってたけど、
すぐムシャクシャして
いました！

でも結局、何とか気を取り直
し(すごく努力して)自分の
苗木を植えに行きました。
みんなでバレーボールをする
のも受け入れました。遊びな
がら、一人で怒り続けていれ
ば、みんなの一日を台無しに
することになる、と分かって
きました。

それで、
仲間に話しました。
それから、助け合う
約束をしました。
もしムカつくことが
あっても、自分の
ことは忘れて、喜ん
で前進しよう。
(チャンスはたくさ
んありました！)

その日は、みんなで気持
ちよく過ごせました。
この体験のおかげで少し
成長できたと思うし、い
つでもやり直せること、
他の人の助けがあれば
もっと単純にそうでき
ることが分かりました。
ブライアン (ムンバイ・インド) 14歳

 <http://wordteens.focolare.org/ja/>
movimento dei
focolari 一致をめざす青少年少女(T4U)
国際事務局による編集済

2019年2月ティーンズいのちの言葉

何を
おいても
まず
平和を

「平和」って
どういう意味か
考えたこと
ある？

聖書の中で
「平和」というと、
たくさん意味があります。
心身の健やかさや、
人間同士、民族間の合意も
指します。

でも何よりもまず
平和は神様からの贈り物。
私たちが誰よりも
愛して下さっている父親とし
ての神の姿が
そこにあります。

